様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月　３ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０４５６１

研究課題名（和文）沖縄における「格差と学び」をめぐる臨床教育学研究ー教師教育の質的向上をめざして

研究課題名（英文）Clinical pedagogy research on "disparity and learning" in Okinawa-To improve the quality of teacher education

研究代表者
村上　呂里（Rori, Murakami）

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：４０２１９９１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：「貧困と学力」をめぐって厳しい課題を抱える沖縄の小学校をフィールドとし、10年間にわたる共同研究に基づき、「貧困に抗する場として学校を再編する手がかり」を「学びとケアをつなぐ教育実践」というキーワードに見出した。その有効性について、全国学力・学習状況調査結果を検証するとともに、①離島の養護教師のライフヒストリー、②「学力保障の臨床理論」の探究、③標準化に向けた介入と子どもの間で苦悩する若手教員が先輩教員と語り合う場を通して「専門職としての成長を支えるストーリー」を獲得するプロセスの探究等により、ケアリング・コミュニティに基づく「専門職として学び合うコミュニティ」形成のあり方を提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
学力結果が良好な学校が「成果報酬としての自律性」を享受する一方、マイノリティが集住する「不利」な学校では標準化に向けた過度な介入が行われ、結果として学びの質をめぐる格差が拡大する矛盾が指摘されている。本研究は、養護教諭を中心とするケアリング・コミュニティを礎とし、「学びとケアをつなぐ教育実践」をキーワードとする「専門職の学び合うコミュニティ」形成のあり方について、実践記録集の作成及びナラティブ的探究方法によって示した。この知見は「専門職の学び合うコミュニティはケアリングの文化と組み合わせることで最も効果的に機能する」というアンディ・ハーグリーブス（1998＝2015）の指摘と合致する。

研究成果の概要（英文）： This research focuses on an elementary school in Okinawa, which have severe issues over "poverty and academic ability." Based on 10 years of collaborative research between the elementary school and the local university, we derived, in order to overcome disparities,we must care for <voices that can not be voiced> emanating from the bottom of children suffering from poverty and violence, and create learning that values the area of emotions. We raised the keyword "education practice that connects learning and caring" with practice. Furthermore, the narattive inquiary to elementary school teachers who have accumulated joint research have shown how "learning community as professionalism" can be formed by caring community centering nursing teacher.

研究分野：教科教育学

キーワード：格差と学び　沖縄　貧困と学力　教師のライフヒストリー　養護教諭　学力保障　臨床教育学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

沖縄県は 2016 年、3 人に 1 人に当たる 29.9%が貧困の状態にあると公表し、「（ア）学校教育による自己肯定感を育む支援と学力の保障」（「沖縄県子どもの貧困対策推進計画」）を掲げた。一方、2016 年沖縄県小学校は全国学力・学習状況調査において全教科全国平均を上回ったが、現場では「学力向上施策」が教師の心身を疲弊させ、子どもの学びを全人格的なものから疎外しているとの指摘がなされている（長堂,2015）。また質問紙調査においては、児童生徒の自己肯定感の低さや地域的課題への関心の低さが顕著に見られる。こうした矛盾は、学力結果が良好な学校が「成果報酬としての自律性」を享受する一方、マイノリティが集住する「不利」な学校では標準化に向けた過度な介入と監視が行われ、結果として教師たちが「専門職としての学び合うネットワーク」から排除され、学びの質をめぐる格差が拡大するという矛盾の指摘（ハーグリーブス（原著 2003／邦訳 2015）と重なり合う。貧困率１位でありながら、10 年という短期間で学力調査最下位から全国平均超えと点数で向上を果たした沖縄県の学校現場で「格差と学び」をめぐってどのような矛盾や葛藤が生じているか、量（点数）と質の双方から検証する必要がある。

本研究のチーム（教科教育学、教育社会学、読書教育、離島僻地教育、地域文化研究者などからなる学際的チーム）は、2008 年度より、貧困や差別・学力問題等の矛盾を抱えた沖縄県の離島の A 小学校と共同研究を積み重ねてきた。このプロセスで学力問題の深層に、貧困を背景とし、戦後も「学ぶ権利」を保障されなかった人々の存在が浮かび上がってきた。こうした日本教育史における「空白」ともいえる地域に根ざし、共同研究では、臨床教育学研究の成果に学び、①子どもの身体や言葉が発する表現を聴き、読み解く、②読み書き文化に非親和的な地域性を踏まえ、読書環境を豊かにデザインする、③子どもの生活背景に根ざした「学びの文脈」を豊かに紡ぐ、3)「教科の本質」とケア（関係性）の視座との統合をめざす、④地域の独自の文化である海人文化の学習をカリキュラムに位置づけ。自尊感情を育成するなどを志向して共同研究を進めてきた。この共同研究から、①厳しい生活背景を持つ子どもたちを支え、<学びの質>を支え深める教職の専門性がどのように獲得されるのか、②①を踏まえ、どのように地域教育を担う教師教育へと還元していくかという課題が浮かび上がってきた。

２．研究の目的

（１）＜学びの創造と実践の場＞を小学校教員と大学教員が共有し、子どもの学びの姿を省察し、貧困問題と学力問題を統一的に切り拓く学び論を構築する。なお、全国学習状況・学力調査の数値的結果からの量的な検証を行う。

（２）小学校教員と大学教員の共同研究の８年以上にわたる厚みのある積み重ねのもとに、ナラティブ的調査方法により小学校教員の葛藤や成長のプロセスを明らかにする。

（３）（１）（２）を踏まえ、貧困問題や学力問題を抱える地域に求められる専門職としての成長の要件を明らかにし、教師教育に還元する。

３．研究の方法

（１）「フィールドの論理」を大切にし、＜学びの創造と実践の場＞を小学校教員と大学教員が共有し、子どもの学びを支える専門職としての相互的成長のために実践記録集を作成する。

（２）小学校教員と大学教員の共同研究の８年以上にわたる厚みのある積み重ねのもとに、大学教員もまた地域教育を担う重要な当事者であるという立ち位置のもとにナラティブ的調査方法を採用し、聴き取った教師の語りを省察し、貧困問題や学力問題を抱えた地域の教師が抱える葛

藤と成長のプロセスを明らかにする。

４．研究成果

（1）については、貧困問題と学力問題を統一的に切り拓く学び論として、「学びとケアをつなぐ教育実践」をキーワードとする提起を行い、理論編と実践記録集からなる『海と空の小学校から学びとケアをつなぐ教育実践　自尊感情を育むカリキュラム・マネジメント』（明石書店、全 177 頁、2018 年 3 月）を公刊した。この書と連動し、「学びとケアをつなぐ」有効性の理論的な検討および全国学習状況・学力調査による数値的な検証を行い、数値的結果においても良好な相関関係にある可能性を見出した（長谷川裕（2019）。また、ヴィゴツキー学統の「学力保障の臨床理論」ともリンクした「豊かな学びをつくる 10 の指針」（前掲書所収）の有効性について、今日軽視されがちな文学の授業の省察を通して検証し、情動の領域を位置づけた学習理論の重要性を明らかにした（村上呂里（2020）。

（2）については、（1）でまとめた共同研究を体験してきた小学校教員の座談会やインタビュー調査をもとに教師の語りを省察し、つぎのような論点が浮かび上がってきた。

①「学力先進地域」をモデルとする学習スタンダードを指標とする「標準化への圧力」（支配的なストーリー）を感じ、目の前の子どもへの願いややりたい授業との間で葛藤する若い教師の苦悩が浮かび上がってきた。「標準化への圧力」により、地域に根ざした複雑な教育課題に主体的に関与し、子どもの学びの姿に対する省察と熟考により専門性を「ゆっくり」培う道筋が妨げられている矛盾が浮かび上がってきた（村上呂里（2017）。

②一方で、子どもを効率的に管理できなければ学級崩壊を招くというような「支配的なストーリー」への圧迫から解き放たれ、若い教師がまるごとの子どもと向き合うことができるためには、先輩教師が若い教師と子どもとの小さなエピソードを日々共有して子ども理解を深め、困りごとを笑いに変え、情動面を大切につながりあうケアリングとしての教師文化（職員室を離れ、湯茶室で育まれる文化）が重要な意味を帯びていることが明らかになった（望月道浩他（2020）。

（3）種々の困難を抱える離島教育を支えてきた養護教諭のライフヒストリーを聴き取り、「島の文化や生活を理解し、受け止め、それを教育の中心にすえること」「子どもの心に寄り添うことが、子どもが安心して育つことにつながる」「保護者の思いを受け止める」「担任がさまざまな人とつながって子どもを支える、そのつなぎを養護教諭が行う」「学びつづける教師であること」などの専門職としてのあり方を導き出した。学力テスト対策に偏る学校現場において、子どもの心身をまるごと支え、地域の人びとや保護者、担任と子どもをつなぐ役割を果たす養護教諭がケアリング・コミュニティ形成の核にあることをあらためて提起した（山口剛史（2020）。

（4）（1）（2）（3）より、「貧困に抗する場として学校を再編する手がかり」（山田哲也（2016））を「学びとケアをつなぐ教育実践」に求め、養護教諭を核とし、地域課題解決の当事者として大学教員が参加することによって管理や競争の関係性を編み直し、ケアリング・コミュニティの形成を土台として専門職の学び合うコミュニティが形成されるあり方を示した。

（4）米軍占領下の沖縄教育体験を踏まえ、沖縄における「格差と学び」を克服するためには地域共同体の伝統文化や精神世界を拠り所とすることが大切であることを明らかにした（武藤清吾（2020））。

これらの知見は、「専門職の学び合うコミュニティはケアリングの文化と組み合わせることで最も効果的に機能する」というアンディ・ハーグリーブス『知識社会の学校と教師』（原著 1998／邦訳版 2015、250 頁）の指摘と呼応する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 長谷川裕	４．巻 24
２．論文標題 貧困に対するペダゴチックなまなざしー主として学校教員についての検討を通して	５．発行年 2019年
３．雑誌名 唯物研究年誌	６．最初と最後の頁 71-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://hdl.handle.net/20.500.12000/45586	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 長谷川裕	４．巻 38
２．論文標題 教育におけるケアの位置ー竹内常一の「集団づくりのケア的転回」の提起の検討を通して考える	５．発行年 2018年
３．雑誌名 人間科学	６．最初と最後の頁 61-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 長谷川裕	４．巻 4
２．論文標題 ＜格差と学び＞問題との取り組みと「学びとケアをつなぐ」ことの意味	５．発行年 2020年
３．雑誌名 琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻紀要	６．最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 村上呂里	４．巻 20
２．論文標題 琉球・沖縄と生活綴方	５．発行年 2020年
３．雑誌名 国語教育史研究	６．最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山口剛史	4．巻 881
2．論文標題 教師として島に生きるー学びとケアをつなぐ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 教育	6．最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 望月道浩・村上呂里・山口剛史	4．巻 97
2．論文標題 貧困問題と学力問題で苦悩する教師たち　―沖縄の教師（A教諭）の語りの省察を通して―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 琉球大学教育学部紀要	6．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 村上呂里	4．巻 97
2．論文標題 「学力保障の臨床理論」と文学の授業の可能性ー「おにたのぼうし」の授業の省察を通して	5．発行年 2020年
3．雑誌名 琉球大学教育学部紀要	6．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 山口剛史	4．巻 97
2．論文標題 離島出身教師のライフヒストリーに見る教師の専門性と離島へき地教育の豊かさ－養護教諭友利良子実践から「島で生き、島で教える覚悟」を考えることを通して	5．発行年 2020年
3．雑誌名 琉球大学教育学部	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 村上呂里	4．巻 16
2．論文標題 あまん童話の授業の可能性と課題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 言語文化論叢	6．最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村上呂里	4．巻 18
2．論文標題 「内なることば」を耕す教育実践の系譜－峰地光重の場合－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国語教育史研究	6．最初と最後の頁 49－60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 村上呂里
2．発表標題 あまん童話の授業の可能性と課題
3．学会等名 全国大学国語教育学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 村上呂里
2．発表標題 日本における多文化教育ー沖縄県を中心に
3．学会等名 教師教育の刷新に関する国際会議（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 望月道浩、村上呂里、山口剛史、辻雄二
２．発表標題 貧困問題と学力問題の間で苦悩する地域で求められる教師の専門性とは何か
３．学会等名 日本臨床教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 村上呂里
２．発表標題 困難を抱えた地域における教師の専門性の探究―伴走者である教師教育者として
３．学会等名 日本臨床教育学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長谷川裕
２．発表標題 貧困に対するペダゴジックなまなざし―学校教員のそれについての事例的把握及び理論的考察
３．学会等名 唯物論研究協会第41回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 長谷川裕
２．発表標題 社会とその変動をどう捉え、教育目標をどう設定するか―〈生活世界とシステム〉という視点から―
３．学会等名 教育目標・評価学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 友利良子・長谷川裕・武藤清吾・村上呂里・望月道浩・山口剛史	4．発行年 2020年
2．出版社 第一印刷	5．総ページ数 142
3．書名 沖縄における「格差と学び」をめぐる臨床教育学研究ー教師教育の質的向上をめざして	

1．著者名 沖縄　八重山学びのゆいまーる研究会　村上呂里　山口剛史　辻雄二　望月道浩	4．発行年 2018年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 177
3．書名 海と空の小学校から学びとケアをつなぐ教育実践－自尊感情を育むカリキュラムマネジメント	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	伊禮　三之 (Irei Mituyuki) (00456435)	仁愛大学・人間生活学部・教授 (33403)	
研究分担者	望月　道浩 (Motizuki Michihiro) (10352642)	琉球大学・教育学部・准教授 (18001)	
研究分担者	辻　雄二 (Tuji Yuji) (20272122)	琉球大学・教育学部・教授 (18001)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山口　剛史 (Yamaguti Takkesi) (20381197)	琉球大学・教育学部・准教授 (18001)	
研究分担者	武藤　清吾 (Mutou Seigo) (30441504)	琉球大学・教育学部・教授 (18001)	
研究分担者	長谷川　裕 (Hasegawa Yutaka) (30253933)	琉球大学・人文社会学部・教授 (18001)	